

国土強靱化地域計画に基づく職員向け防災訓練の実施

自治体名

東京都八丈町

人口（R6.9.1現在）

6,881人

取組のキーワード

■ リスクシナリオ

■ リスクの共有

■ 災害対応力の向上

地域計画の履歴

令和4年3月 策定

取組のカテゴリ

想定災害

地震災害

津波災害

取組主体

行政職員

有識者（学識経験者等）

国・都道府県・近隣自治体等（自組織以外）

施策分野

行政機能

警察・消防等

防災教育等

リスクコミュニケーション

官民連携

デジタル活用

取組の概要・ポイント

取組を実施するきっかけとなった背景や課題

- ✓ 八丈町は伊豆諸島の南部に位置しており、南海トラフ巨大地震が発生した場合、最大津波高17.2m、最大津波高到達時間23.3分と想定されており、津波防災対策の更なる推進が求められていた。
- ✓ 本町は、島しょ地域として実施できる津波に関するハード対策に限界があると考え、リスクシナリオと対応策を網羅的に整理した国土強靱化地域計画を活かし、ソフト対策を充実させることで発災時の被害を減らすことを目指した。

取組と地域計画の関係

- ✓ リスクシナリオ「3-2.地方行政機関の職員・施設等の被災による機能の大幅な低下」に対する強靱化の推進方針として「職員採用や研修等を通じた職員育成を推進し、行政運営の基盤を強化する」と記載しており、本訓練を実施する根拠となっている。

取組の内容

- ✓ 「八丈町国土強靱化地域計画」の実効性向上とソフト対策の充実の一環として、庁内外での国土強靱化に関する連携強化・意識共有を図るため、「国土強靱化に関する講演」、「八丈町における発生しうる災害映像の視聴」、「八丈町独自のリスクシナリオのイメージトレーニング」の3種類の訓練を全庁職員と防災関係機関に対して実施した。

今後の展開予定

- ✓ 今回は机上訓練のみであったため、年に1度実施する総合的な防災訓練である「八丈町防災訓練」に「八丈町独自のリスクシナリオのイメージトレーニング」でのアウトプットを反映した、現場での住民・民間企業と連携した防災訓練の実施を検討中である。

1 取組を実施するきっかけとなった背景や課題

- 八丈町は伊豆諸島の南部に位置しており、南海トラフ巨大地震が発生した場合、津波により大きな被害を受ける可能性がある。
- 東京都が令和4年5月25日に公表した「首都直下地震等による東京の被害想定」では、南海トラフ巨大地震が発生した場合に八丈島の被害は最大津波高 17.2m、最大津波高到達時間23.3分と想定されており、津波防災対策の更なる推進が求められていた。
- 島しょ地域は本土からの支援に時間を要することから、自治体の災害対応力が重要である。リスクシナリオと対応策を網羅的に整理した国土強靱化地域計画を活かし、町職員をはじめ、災害対応に携わる関係者が発災時の被害想定を具体的に把握することで、災害対応力の向上を目指した。

2 取組の内容

- 「国土強靱化に関する講演」、「八丈町における発生しうる災害映像の視聴」、「八丈町独自のリスクシナリオのイメージトレーニング」の3種類の訓練を全庁職員と防災関係機関（東京都八丈支庁、八丈島警察署等）の職員に対して実施した。
- 訓練は、職員が八丈町のリスクを知り、行動に移すよいきっかけとなったほか、八丈町の地域強靱化を関係機関とも連携しながら、全庁的に取り組む必要性の認識してもらうことができた。
- 訓練の内容は以下のとおり。

<国土強靱化に関する講演>

- ✓ 国土強靱化への理解を深めるため、内閣官房のナショナル・レジリエンス（防災・減災）懇談会で委員も務めた中林一樹 東京都立大学名誉教授による講演を受けた。

<八丈町における発生しうる災害映像の視聴>

- ✓ 八丈町における想定災害を自らのリスクとして認識するため、八丈町の3次元データに津波災害・土砂災害・火山災害の被害想定等を重ね合わせた「災害イメージ映像」を視聴した。

<八丈町独自のリスクシナリオのイメージトレーニング>

- ✓ 八丈町で起こりうる「最悪の事態（リスクシナリオ）」について具体的に想定するため、職員を少人数の7班に分け、リスクをより明確にするイメージトレーニングをグループワーク形式で実施した。

職員訓練の様子

(国土強靱化に関する講演)



(災害映像の視聴の様子)



(3Dビューによるリスクの見える化)



(グループワークの様子)



3 取組と地域計画の関係

【地域計画における記載】

- 令和4年3月策定の八丈町国土強靱化地域計画では、リスクシナリオ「2-3.自衛隊、警察、消防、海保等の被災等による救助・救急活動等の絶対的不足」に対する施策として「行政機関、救助・救急機関等との連携の強化」を記載している。また、リスクシナリオ「3-2.地方行政機関の職員・施設等の被災による機能の大幅な低下」に対する強靱化の推進方針として「職員採用や研修等を通じた職員育成を推進し、行政運営の基盤を強化する」と記載しており、このような記載が本訓練を実施する根拠となっている。

4 今後の展開予定

- 今回は机上訓練のみであったため、年に1度実施する総合的な防災訓練である「八丈町防災訓練」に「八丈町独自のリスクシナリオのイメージトレーニング」でのアウトプットを反映した、現場での住民・民間企業と連携した防災訓練の実施を検討中である。

参考 周囲の声（庁内職員・住民・企業）

- 時間の制限があることと職員に常に意識を持ってもらう事を考えると毎年継続していただきたい。（町職員）
- 実際に被害を想定した動画視聴やグループワークをする機会がこれまでなかったので、非常に勉強になった。（町職員）
- 今回の規模ではなく、小規模でいいので回数増と継続が必要だと思う。（町職員）
- 国土強靱化という概念について理解を深めることができた。（町職員）
- 想定外の災害に遭遇した場合の対処法として、自助・共助・公助の大切さを感じた。（町職員）
- 国土強靱化計画のイメージがなかなかできていなかったところ、分かりやすく説明いただき勉強になった。（町職員）